

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	0
施設名	にこ森保育園
施設所在地	青梅市新町4-14-16
法人名	株式会社モアスマイルプロジェクト

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

【①テーマを決める】

自然（水）

<テーマの設定理由>

プール活動が始まり、子どもたちから「なんで〇〇君は浮くことができるの?」「なんで、××は浮くのに、△△は沈んでしまうの?」という子どもの疑問から、「水」をテーマとして設定する。子どもたちが疑問に思ったことをさらに探求できるようにするため。水に浮くものや沈むものなどを試したり、水の動きを作るためにプールの中でどんな動きをみんなでしたらいいか実際に試してみる。また、人工で作った水の流れだけでなく、実際に川などに行き、水の流れや、浮くもの沈むものを実験する。

## 2. 活動スケジュール

令和6年7月から8月

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

1. プール、ビート版、様々な玩具
2. ペットボトルや絵具
3. 竹船や木船（子どもたちが作る）
4. プールだけでなく、川などへ行って水の流れをみるための移動用の車

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

幼児（3～5歳児）は水の動きを作るためにプールの中でどんな動きをみんなでしたらいいか実際に試して行く。縦の動きを個々にしてもあまり水に変化はないがみんなで掛け声を合わせて同じ方向に進むと大きな波が出来ることを知り楽しんだ。流れるプールを作るためにはどれくらい歩いて回るといいのか途中逆に回ったら流れや水の抵抗がどれくらいあるのかを体験しながら感じる。身近にあるものを水の上に乗せ、水に浮くもの、溶けるもの、沈むものを実験して調査しようとしてそうなるのかを考えた。

乳児（1～2歳児）溶けたものが下に沈んだがどうしてそうなるのかを話し合いまた混ぜたらどうなるのかなど色水を作って楽しみながら実験した。色水遊びに興味があったため、それを活用して子どもたちの玩具作りを一緒に行った。キラキラの色が実折り紙を小さく切ったものやフェルトの玉を用意し、子どもたちに入れてもらった。絵の具をペットボトルの蓋部分に少量入れ、振ることで水が色着く様子を楽しんだ。食紅で製氷機に色水氷を作り、氷お絵描きををした。氷の冷たさや溶けて水になる時などの感触を楽しむと共に、溶けだした時に紙に着く色や、混ざりあった色の様子などを楽しんだ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

プール活動では、子どもたちの不思議を体験に変えられるよう、「なんでだろうね？」という問いかけを大切に、子どもたちから進んでやってみようという気持ちになるように、「こうしたらどうなるのか？」という疑問を探究心に変えられるような声かけをした。子どもたちは、自分たちで発見することが楽しかった様子で、次から次へと考えてはやってみようの気持ちが増えていく様子だった。乳児の色水作りでは、透明な水が少しずつ色が変わっていく様子を楽しんでいた。どうしたら、薄い色ができるのか？濃い色ができるのか？など、視覚で見せることで、子どもたちが薄くしたいのか？濃くしたいのか？を一緒に考えたりした。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは、成長するごとに様々なことを疑問に思うようになり、その答えを聞こうとする。教えることは簡単だが、自分でその答えを見つけること、答えは一つではないことを発見することが大切であることを伝えていきた。